



北川 広人 議員

市長3期目の 市政運営を問う

問 高浜市のこれからの福祉施策に対して、市長の3期目の想いは。

答 行政のやることは、個人や地域でできないことを補完することであり、今まで進めてきた福祉施策は、

何らブレることはない。皆さんのお力をお借りしながら、市民の中に溶け込んだ地域包括ケアに繋がるような施策を進めていく。

問 介護保険法の改正を踏まえ、第7期の介護保険事業計画策定をどのように考えているのか。

答 介護保険審議会を2回開催し、高齢者の現状把握・市民アンケートから見える課題の整理やまとめ・上乘せサービス及び横出しサービスの今後のあり方の検討・第7期の計画の骨子及び基本理念等について審議をしてきた。また、ワーキングチームでは、アンケート結果を踏まえ、「介護人材の確保・育成」、「多職種連携・推進」、「介護予防プログラムの開発」の3テー

マで検討してきている。10月開催の介護保険審議会において、報告書として提言する予定である。

問 上乘せ・横出しサービスについては、第7期の計画でどのように考えているのか。

答 現段階で上乘せサービスは、認知症や中重度の方など、真に必要な方に、さらに重点化する方向で考えている。横出しサービスは、現場の視点も加えながら検討を進めていて、対象範囲を拡充する方向等で検討している。

問 医療法人豊田会との協定書は、両者が、市の目指すべき医療と介護の姿を共有し、パートナーシップを結んだ証であると考え、この地域でパートナーとして何をしていくのかを協定書に明確に記すべきと思うが、市としての方向性や基本的な考え方はどうか。

答 住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる仕組みである地域包括ケアシステムの構築は、行政だけではできない。開業医を初めとした医療や介護との連携も不可欠。高浜分院には、高浜市とともに地域医療、そして高浜市の介護を下支えするという明確な目的を持っていただき、協定書の締結に向けて進めていく。



内藤 とし子 議員

市長3選の結果と 市政運営について

問 今選挙で市長の得票が有権者の約4分の1。投票率も過去最低で、小学校建替に「説明は尽くしたつもりだったが、批判票をみると伝わっていなかった」、

「今後、市内の小学校区ごとに説明会を開き、膝詰めで丁寧に説明したい」と話された。今回の結果をどう受け止め、今後の市政運営を行うのか。

答 2期8年間の政策実績等を踏まえ、今回の選挙で信任を得たが、批判もあるという反省も踏まえ、今後も利用者等と意見交換を行い、進めていきたい。

医療行政について

問 市と豊田会は覚書を交わしたが、市民に説明せずに進めている。土地も市が提供すべきではなく、豊田会が自分で探すべきではないか。

答 地区説明会等で説明しており、今後も医

療・地域包括ケア等を担っていただきたいと考えている。

高齢者福祉について

問 介護保険制度の改悪により、住民の負担増が1割から2割になったが、その影響はどうか。

答 影響を受けた方が、6月サービス分で111人です。

問 厚生労働省は7月に、認知症初期対応の重要性を強調する新オレンジプランを公表した。当市の若年性認知症の方で、介護保険サービス利用者は何人で、どのようなサービスを利用しているか。

答 若年性認知症での要介護認定は1人で、通所介護サービスを利用されている。

問 来年度保険料をいくらと考えるか。現在16段階の料率を増やす考えは。また、100人以上の待機者に、施設増設は考えていないか。

答 保険料収納必要額、給付見込み額とのバランスを考慮して審議会で検討。16段階は県内でもトップであり、給付分析、待機者状況、保険料への影響等を総合的に判断していく。施設増設は、現段階でそういった予定はない。